

◆ 第1学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Hi, English! Unit0～9 Presentation2	P.4～P.105
開隆堂	Let's Start PROGRAM1～9 Power-up⑨Reading	P.6～P.97
学校図書	Pre-lesson Let's Start Lesson1～8	P.4～P.106
三省堂	Get Ready Lesson1～8	P.6～P.105
教育出版	Springboard Lesson1～7	P.2～P.96

◇ 第1学年 《取り扱う言語材料》

- 単文、重文
- 肯定及び否定の平叙文（現在形）
- 肯定及び否定の命令文
- 疑問文のうち、動詞（現在形）で始まるもの、助動詞（do, does）で始まるもの及び疑問詞（how, what, where, who, whose）で始まるもの
- 名詞の単数形及び複数形
- 文構造
 - 【主語＋動詞】
 - 【主語＋動詞＋補語】のうち、主語＋be動詞＋{ 名詞 代名詞 形容詞 }
 - 【主語＋動詞＋目的語】のうち、主語＋動詞＋{ 名詞 代名詞 }
- 代名詞のうち、人称、指示、疑問を表すもの
- 音声に関するもの

★ 第1・2学年とも出題は《出題範囲を取り扱うページ》から行います。ただし、文法事項については、《取り扱う言語材料》に記載しているもののみとします。

◆ 第2学年 《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Unit0～6	P.4～P.89
開隆堂	Classroom English PROGRAM1～8	P.6～P.79
学校図書	Pre-lesson Lesson1～Check It Out⑧	P.6～P.99
三省堂	Lesson1～7	P.6～P.91
教育出版	Lesson1～7	P.4～P.88

◇ 第2学年 《取り扱う言語材料》

- 単文、重文及び複文
- 肯定及び否定の平叙文
- 肯定及び否定の命令文
- 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞 (can, do, may など) で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞 (how, what, when, where, which, who, whose, why) で始まるもの
- 文構造
 - 【主語＋動詞】
 - 【主語＋動詞＋補語】のうち、主語＋be動詞＋{ 名詞 代名詞 形容詞 } ,
主語＋be動詞以外の動詞＋{ 名詞 形容詞 }
 - 【主語＋動詞＋目的語】のうち、主語＋動詞
＋{ 名詞 代名詞 動名詞 to不定詞 that で始まる節}
 - 【主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語】のうち、主語＋動詞＋間接目的語
＋{ 名詞 代名詞 }
 - There ＋ be動詞＋～
- 代名詞
 - 人称、指示、疑問、数量を表すもの
- 動詞の時制など
 - 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形及び助動詞などをを用いた未来表現
- to不定詞のうち、名詞としての用法及び副詞としての用法
- 動名詞
- have to, don't have to
- 音声に関するもの

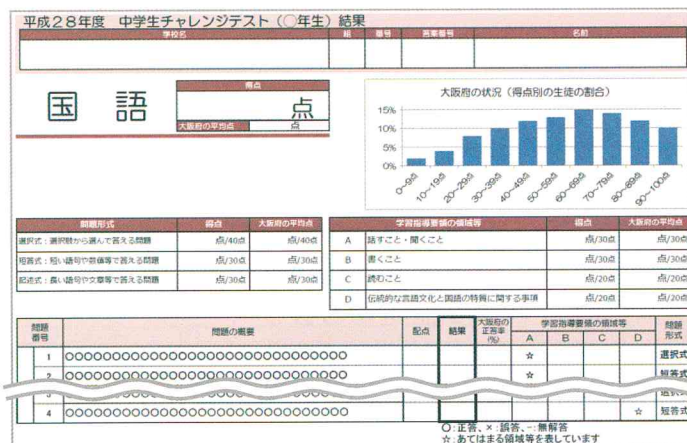
※ 第1・2学年とも上記以外のページにある資料（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

結果の提供について

- 生徒一人ひとりの結果を個人票で提供します。
- 個人票には、生徒個人と大阪府全体の調査結果を記載しています。
- 個人票は、平成29年3月中旬に各学校から生徒のみなさんに提供される予定です。

※ 事業の一部（調査問題の配送・回収、採点・集計等）は、大阪府教育委員会が民間機関に委託して実施します。

生徒のみなさんに提供される 個人票のイメージ



大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書の評定について

- チャレンジテスト実施教科について、各中学校が調査書に記載する第1、第2学年の評定は、大阪府教育委員会が提供する「評定の範囲」に示す得点の範囲内であることが必要です。なお、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜からは第1学年～第3学年の全学年の評定が選抜の資料になります。

※ 「**評定の範囲**」とは

各中学校における生徒の評定が、妥当性・信頼性の高いものであるかどうかを判断し、選抜の公平性を担保するため、府内中学校の仮評定とチャレンジテストの結果から算出し、大阪府教育委員会が示す得点の範囲のことです。

(例) 評定の範囲 (平成27年度)

第1学年	評定5	評定4	評定3	評定2	評定1
国語	100点～62点	93点～49点	84点～31点	67点～10点	55点～0点

※例：第1学年の国語において「評定3」と評価されている生徒のチャレンジテストの得点が「評定の範囲」である84点から31点の間にあれば、その生徒の評価は妥当かつ信頼できるものとします。